

# 隠れ家みつけた

お食事処 峠の茶屋

本島中部の北中城村。中心街へ坂登るロードは、中城湾が一望可能な美しい景観が目に入る。中心街の小道は複雑に入り組んでいて土地感がないと、どこが中城村との境界なのか区別がつかない。大西テラスゴルフクラブを更に中城城址向けに進むと、峠の茶屋が見えてくる。経営者は島袋恵美子さん。旅行会社勤務経験をもつ笑いの絶えない方だ。元々地域活性化に関心を抱いていた島袋さんは、平成7年から北中城村商工会で開かれた「ぐすく塾」に参加し村おこしの研修を積み重ねてきた。その時抱いた想いが「地域活性化のために自分に何ができるか」という事だった。村の農家から新鮮な野菜が提供されるのに、過剰生産期には野菜が廃棄される。そのもったいなさから村で朝市を開こうと決意、村役場向いで朝市を開き農家から大変喜ばれた。朝市を続けているうちに農家とのコミュニケーションが深まり、いつの日か自分自身が村で生産される野菜を使って飲食店を経営したいと思うようになった。2006年合同会社を設立、翌年2月に



豚足入りのランチ  
¥1,100円



地元食材特産品の販売コーナー

店舗名	お食事処 峠の茶屋
社名	合同会社 笑福家
代表	島袋 恵美子
住所	北中城村字大城170番地
電話	098-935-3718 090-2512-7308
Eメール	info@shofukuya.com

島袋 恵美子さん

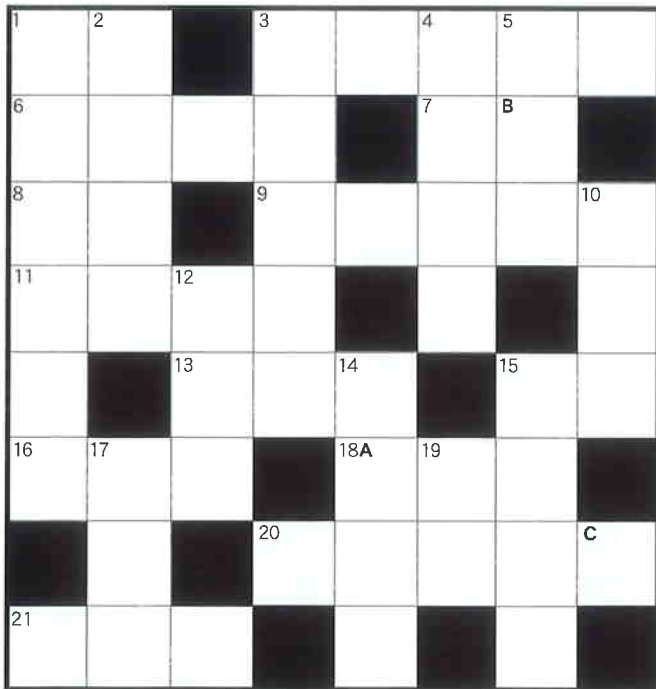
はお食事処「峠の茶屋」をオープンした。

単に地元の食材を使った家庭料理を提供する店ではなく、料理に込められた地元食材のストーリーをお客様に伝える事がお店のコンセプトだ。そのため毎日小鉢のメニューが変わる。お客の立場からはサプライズだ。ランチタイムは、メインディッシュを島豚てびち煮つけ、魚、ハンバーグ(他)等の中から選び、付け合わせに地元の旬の有機野菜が数種類添えられボリュームは若者にも満足する程だ。店内には所狭しと域内の有機野菜、果物、特産品を並べている。最近島袋さんは地元野菜をもっと活用しようと特産品開発にチャレンジしている。現在手掛けているのは、ローゼルジャム、お茶の特産品だ。地元野菜の活用と飲食店を営

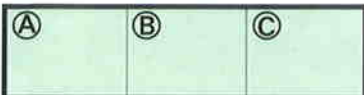
して、島袋さんは地域コミュニティの重要性を強調する。

来年7月の「全国まちづくり交流会 IN 沖縄・北中城2010」では、300人の誘致を始めつつ、「この村の住民であることを喜びたい」と語っていた。

## プチ経営に役立つワードパズル



※回答はすべてカタカナで書いてください  
ヒント：学校に通うとよくあるものです。



※答えは11月号に掲載します。

### ★★★ タテ

- ①月を見ながら食べるのは
- ②風鈴が〇〇〇〇となる
- ③出入りすることを英語で
- ④P P M分析で資金流入、資金流出共に少ないのは
- ⑤東大の〇〇〇講堂
- ⑩ストレスの反対
- ⑫1980年代のアイドル・松田〇〇〇
- ⑭牛肉でジューシーな肉厚のメニュー
- ⑮平らなことを英語で
- ⑰二日酔い効くイモ科の植物
- ⑱下駄の鼻緒を〇〇る

### ★★★ ヨコ

- ①魚をゲットするもの〇〇道具
- ③五木ひろしの歌「千曲川」の歌詞、「煙たなびく〇〇〇〇」
- ⑥商工会の得意業務
- ⑦ケシゴムで・・・
- ⑧1センチの10分の1単位
- ⑨札幌市内の観光名所
- ⑪男の人のことを
- ⑬糖尿病になると減少する酵素〇〇〇リン
- ⑮竹の〇〇
- ⑰合同コンパのことを〇〇〇ン
- ⑱磁力の単位
- ⑳標的のこと
- ㉑歌を英語で